

分科会 6

ピアサポートとともにひろげる医療の場におけるリカバリー

- 進行： 相澤和美（地域精神看護ケアねっと／国際医療福祉大学大学院）
佐々木理恵（東京大学医学部附属病院精神神経科）
和田公一（横浜市旭区地域生活支援拠点「ほっとぽっと」）
川口敬之（NPO 法人精神科作業療法協会／北里大学）
- 出演者： 中林澄明（社会福祉法人はらからの家）
澤田高綱（横浜市旭区地域生活支援拠点「ほっとぽっと」）
佐藤明子（駒木野病院）

全体の流れ

本分科会では、フォーラム全体テーマである「ピアサポートの可能性」を医療の場に広め、医療の場をリカバリー志向に転換するための具体的な方策について、参加者みんなで話し合いました。

はじめに、院内でのピアサポート活動をきっかけに退院に至った当事者の方のビデオレターを上映しました。

続いて、東京と横浜の地で活躍されている2人のピアサポーターから、病院の中でのピアサポート活動の具体的な実践内容や意義について発表してもらいました。また、病院の様々な制約がある中でピアサポートを導入し連携している看護師の立場から、ピアサポート活動による入院中の当事者の変化や今後の展望について語ってもらいました。

次に、出演者の発表を受けて、「リカバリー志向の医療サービス実現に向けて／医療の場にピアサポートを根づかせるために『私たちができること』」をテーマにグループディスカッションを行い、アイデアをシートに自由に書き出しました。いきいきとしたアイデアは延べ104あがり、各グループに発表していただき、みんなでシェアすることができました。

分科会を通して、医療の場にピアサポートの風が吹き、当事者のリカバリーが育まれるような医療の場にしていくために、私たち一人ひとりが主体となって「できること」にチャレンジしていけたらと思います。

グループディスカッションであがった「私たちができること」のアイデア（抜粋）

- ・病棟にピアサポーターを招待し、お茶会をする！
- ・当事者、支援者、家族、一般市民の立場を越えた研修会を行う
- ・医療を変えるには仲間を増やす！
- ・地域と病院のつながり（結びつき）を作る
- ・リカバリー全国フォーラムで聞いてきた話を、自分の部署や院内で共有する
- ・院内報でPR、研修会でピアについての勉強会をしてみる
- ・ピアサポート活動の具体的な情報バンクを作る
- ・スタッフとして、ピアサポーターを雇用する
- ・ピアサポーター自身も成長する努力が必要
- ・ピアサポーターの実数や活動状況を明らかにする

「できること」シートとディスカッションの様子

